



日本の衰退化が言われて久しくなりますが、果たしてそうでしょうか。

徳真会グループは、現在、提携先も含めると世界10ヵ国(日本、中国、アメリカ、香港、台湾、シンガポール、英国、ノルウェー、オーストラリア、カナダ)54拠点に診療所、技工センターを持ち、12ヵ国籍約2500名の人達が働いていますが、どの国にも良いところも有り問題も有ります。抱えている問題は、日本と同じ問題も有れば異なる問題も有り、完全な国はどこにも有りません。

我々は、相対的比較の中で生きるのか、絶対的比較の中で生きるかによって幸せ感は異なってくると思います。

相対的比較の中で自分の幸せを感じる人達は、常に他との比較でしか物事を判断出来ず、他人の不幸や失敗を内心喜び、他人の成功や努力を認めようとしないで常に不平や不満を持ち、その原因を他へ転嫁し、結果的に永遠に幸せ感を持ってないで生きている様に見えます。

一方、絶対的比較の中で生きてる人は、他との比較でなく、自分の目標、目的、信念、志といった唯一無二のゴールが明確で、そこへ向かっての努力や達成感の中に幸せ感を持つものだと思います。

今日の日本は、物質的には極めて豊かで、医療、福祉においても、受益者の負担の割に質の高いサービスを受けられる幸せな国家であることは間違い有りません。

なのに、今日の日本に漂う悲壮感は、果たしてどこからくるのでしょうか。

それはバブル時代の経済と比較した低成長の社会に

対してなのか、あるいは、新興国の成長への脅威なのか、または、膨張し続ける財政赤字に対してなのか、いずれも相対的比較や、依存体質から出ている考え方による様な気がしてなりません。

資源の乏しい小さな国家でありながら、その勤勉さに裏打ちされた緻密な技術を開発し、それを引揚げ、世界各地へ海を渡って出て行った進取の気性に富んだ人達が、この国をここ迄発展させてきた事実を、もう一度見直してみるべきではないでしょうか。

我々は、まだ来ない未来に対して内向きで悲観的に生きるのではなく、志や夢を引っ提げて、世界へ再び出てゆくのではないですか。

かつて発明家で有名な豊田佐吉は、「障子を開けてみよ、外は広いぞ」と言い、明治時代に海外諸国の特許を取得し、日本の工業発展に大きな足跡を残しました。当時より世界がこれだけ狭くなりまさに「世界が舞台」がすぐ眼前にある時代に生きる我々が、それぞれの分野でもっと時代を切り拓く気概を持って行動すれば、必ず再び日本は活力にあふれ、世界で最も素晴らしい国家になると思います。

徳真会は、「優れた Human Company の創造」を歯科という分野から具現化し、世界各地で今後も有能な人材の育成を行ってゆくつもりであります。